



### 1. イーター用超伝導コイル導体の初出荷

原子力機構が調達を担っているイーター・トロイダル磁場 (TF) コイル用超伝導導体の最初の製作物 (長さ 100 m と 760 m の模擬導体及び 415 m の超伝導導体) が完成しました (図 1)。これら 3 つの導体を、次の工程である TF コイル巻線試作に用いるため、3 月 15 日から 19 日にかけて福岡県北九州市にある導体製作工場である新日鉄エンジニアリング(株)若松 ITER 工場から、コイル巻線試作を行う神奈川県横浜市の(株)東芝京浜事業所まで輸送しました (図 2、図 3)。

760 m 長さの導体はリング状に巻いて輸送しました。この積荷は、幅 4.8 m、奥行き 4.8 m、高さ 4.3 m で、重量は 15.7 トンです。導体輸送は海上輸送により行い、3 月 16 日に北九州市北九州港を出港し、瀬戸内海、太平洋航路で、3 月 19 日に横浜市京浜港に到着しました。

### 2. リエゾン・オフィスをイーター機構に設置

日本の国内機関 (JADA) のリエゾン・オフィスがイーター機構本部 (在フランス・カダラッシュ) 内に設置され、1 月 18 日よりリエゾンオフィサー (原子力機構 ITER 協力調整グループ上野健一研究員) が着任しました。

イーター機構にリエゾン・オフィスを設置したのは、参加極の中では日本が初めてです。イーター機構は、各極の国内機関に対し、コミュニケーションの一層の向上、問題への早期対処を目的として、リエゾンが常駐することを希望しており、その要望にいち早く対応したものです。この日本のリエゾン・オフィス開設は、イーター機構のホームページ (ITER ニュースライン) に紹介されました。

[ITER 機構が日本のリエゾン・オフィスを紹介した URL]  
<http://www.iter.org/newsline/Pages/119/1738.aspx>

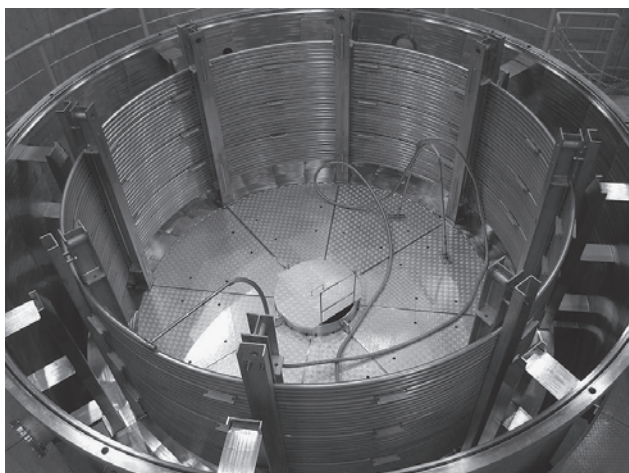


図 1 完成したイーター用超伝導コイル模擬導体(長さ 760 m)。

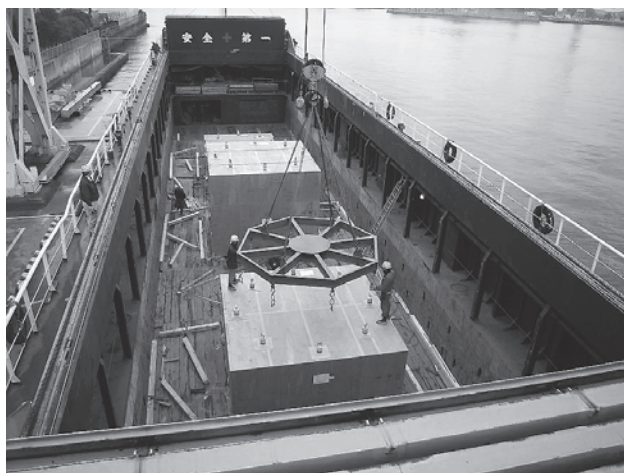


図 3 京浜港に到着した模擬導体 (於横浜市鶴見区)。



図 2 出荷港に向け、慎重に輸送される模擬導体 (於北九州市若松区)。

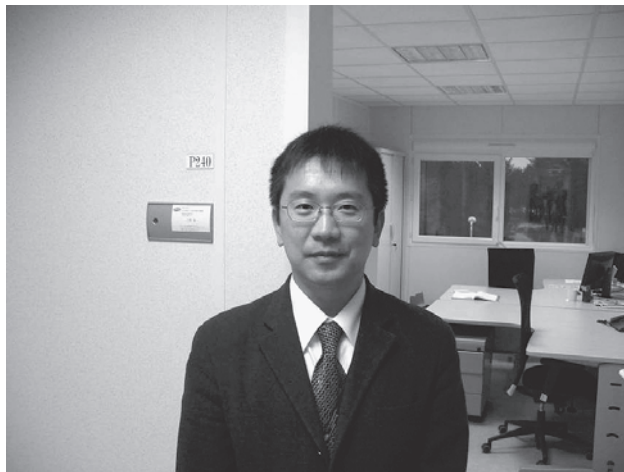


図 4 ITER 機構本部 JADA リエゾン・オフィス。

### 3. ドイツ・バイエルン州議会代表団が那珂核融合研究所を視察

3月18日にドイツ・バイエルン州議会の大学・研究・文化委員会代表団一行（計21名）が、原子力機構那珂研究所を訪問されました。代表団を代表し、団長であるベルント・ジブラー議員は「核融合は研究として重要であるばかりではなく、持続可能なエネルギーの安定供給の点からも、強い関心を持っている。」と視察の目的を述べられました。一行は西副部門長より概況説明を受けた後、JT-60施設、超伝導体製作棟、高周波加熱研究施設を視察されました。

一行からは、イーター計画、幅広いアプローチ計画、日独の核融合研究協力について、熱心な質疑応答がなされました。

### 4. 青森県エネルギーフェスタに参加

2月10日にホテル青森にて開催された青森県エネルギーフェスタにおいて、イーター計画および幅広いアプローチ計画の展示を行うとともに、イーター機構職員募集の説明会を実施しました。来訪者からは、イーター機構とはどのような組織であるのか、イーター機構職員にはどのような人が応募できるのかなど積極的な質問が寄せられました。

イーター機構の職員募集に関しては、以下をご参照ください。

原子力機構那珂研究所イーター機構職員募集の案内ページ：  
[http://www.naka.jaea.go.jp/ITER/recruit/boshu\\_midashi1.html](http://www.naka.jaea.go.jp/ITER/recruit/boshu_midashi1.html)  
(日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門)



図5 那珂核融合研究所を視察されたドイツ・バイエルン州議会代表団。

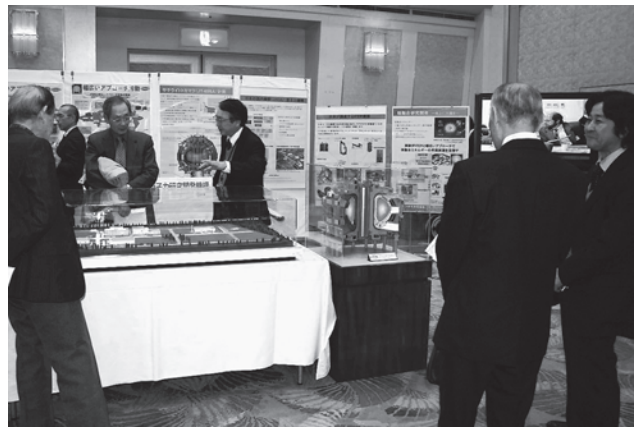


図6 青森県エネルギーフェスタでの展示の様子。